

(陳受23第24号)

すべての原発の廃止及び送電と発電の分離について国への意見書提出に関する陳情

受理年月日

平成23年9月26日

陳情者

吉祥寺北町在住

陳情の要旨

3月11日の大震災による福島原発の事故以来、原子力発電の存廃について、真剣に考えざるを得なくなりました。日本がこれほどの地震列島という国土にあることを考えれば、54基もの原発を建て、原子力発電に生活をゆだねる政策をとってきたことは、結論から言えば大きな誤りであったと考えます。

福島原発の事故による放射能汚染はすでにこの武蔵野市の子どもたち、大人たちの健康に脅威を与えるものとなっていること、原子力発電は、これを維持するために日ごろ原子力発電所で働く人々の健康・生命を犠牲にしていること、一たん事故が起これば事故処理のために働く人々の生命、周辺住民の生命と生活を犠牲にしてしまうものであること、仮に事故がこの先は起こらなくても、原子力発電の結果として残される使用済み核燃料は、このまま行き場もなくふえ続け、地球のどこに持っていかうとも核廃棄物は私たちの世代が将来にわたって地球の生物を脅かす毒にほかならないこと、新たに原発事故がこの先起こらない保証はなく、一たん次の事故が起こってしまえば、日本が壊滅するだけでなく、海と空を通して地球上のすべての生命を脅かす汚染を広げてしまうこと、等の問題に向き合ったとき、日本はすべての原発を廃止するよう、政策を転換するほかないと考えられます。次々と老朽化してゆく原子力発電所の危険性を考えれば、政策の転換は待ったなしに必要です。

日本は技術力を生かし、エネルギー政策を転換することが必要です。

自然エネルギーによる発電を生かすためにも、大手電力会社が独占してきた送電と発電を分離することも必要です。

以上を踏まえ、武蔵野市議会が、すべての原発を廃止するとともに大手電力会社が独占してきた送電と発電を分離するように、国（内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、関係各省庁）に意見書を提出するように陳情します。